

BTC NEWS

BTC ニュース

2022年(2) No.127

研修生募集中



育成調教技術者養成研修 2023年春からの研修生募集中

第5回浦河高校写真部 BTC フォトコンテスト 理事長賞 「お疲れ様です。。。」 飯田鈴音

CONTENTS

- | | |
|--|---|
| ① 科学の箱馬車 1
「うまづくりは“人”づくりから」 | ⑤ 馬に見られる病気..... 12
ハートをつかもう: 馬の循環器学(3) |
| ② 海外の馬最新情報..... 4
馬に対する特殊画像診断について
(英国・アイルランドの二次診療施設研修を踏まえて) | ⑥ 施設巡り BTC利用牧場の紹介..... 16
三嶋牧場 ~第22回チャンピオンズカップ(GI) 優勝馬・最優秀ダートホース受賞 テーオーケインズ号の育成調教牧場~ |
| ③ 施設巡り BTC利用牧場の紹介..... 8
チームブレアデス
~エリザベス女王杯(GI)優勝馬 アカイト号の育成調教牧場~ | ⑦ BTCからのお知らせ: 第5回BTCフォトコンテスト.. 18 |
| ④ 競馬の箱馬車 10
JRA競馬博物館特別展
「長瀬智之展~肖像画に生きる永遠の名馬たち~」 | ⑧ やさしい生産育成技術 19
アイルランドの生産育成の現状
⑥アイルランドの育成
あとがき..... 24 |



公益財団法人
軽種馬育成調教センター

Bloodhorse Training Center

「うまづくりは“人”づくりから」

浦河労働基準監督署 労働基準監督官

坪川 竜大

はじめに

「馬だからしょうがない」

令和2年4月1日に私が浦河労働基準監督署に安全衛生担当として赴任してきてから、この言葉を何回聞いたでしょうか。

労働災害の一報を受け、災害現場に到着した際、牧場担当者の開口一番がこの言葉だったこともありました。

今まで労働基準監督官として様々な業種の様々な労働災害の現場を目の当たりにしてきた身として、これだけ複数人から同じ言葉を繰り返されたことは初めての経験であったため、強いショックを受けたことを覚えています。

日高地方の軽種馬産業における労働災害の現状

業種	H28.1.1～R2.12.31		千人率	
	死傷者数 (死亡・休業4日以上)	1年平均 労働者・ 就業者数		
卸・小売業	31	6.2	4923	1.3
建設業	70	14.0	2847	4.9
製造業(すべて)	51	10.2	1113	9.2
製造業 (食料品製造業)	24	4.8	631	7.6
林業	21	4.2	308	13.6
漁業	53	10.6	675	15.7
軽種馬牧場 (日高7町)	505	101.0	3456	29.2

表1 日高地方の主要産業別千人率

上の表は、浦河労働基準監督署管内（日高7町）における、主要産業別に“千人率”を比較した表です。

“千人率”とは労働災害の発生頻度を表す指標のひとつです。

1年間の労働者1,000人当たりが発生した死傷者数の割合であり、数値が高いほど災害発生頻度が高いことを示しています。

計算方法は、

【自社の労働災害による死傷者数（年間）

÷年間平均労働者数×1,000】

表内の数字は、過去5年間に発生した浦河労働基準監督署管内（日高7町）における死亡災害及び休業4日以上労働災害のデータと経済産業省統計データ、国勢調査の各業種による労働者・就業者人口の直近データより計算しています。

表内での千人率については、あくまで業種間の比較を行うことと、業種毎の平均値を求めるために、誤差を最小限に収めるよう死傷者数については過去5年間の死傷者数を1年間の平均に換算して計算しています。

表のとおり、浦河労働基準監督署管内（日高7町）の軽種馬牧場における千人率は建設業の5倍以上、漁業の約2倍と極めて高い数値を記録しており、それだけ産業としての労働災害の発生率が高いことを表しています。

使用者の責務と労働者の責務

労働安全衛生法では事業者及び労働者の責務として以下の通り規定されています。

“労働安全衛生法第3条（事業者等の責務）”

「事業者は、単にこの法律で定める労働災害の防止のための最低基準を守るだけでなく、快適な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて職場における労働者の安全と健康を確保するようにしなければならない。また、事業者は、国が実施する労働災害の防止に関する施策に協力するようにしなければならない。」

“労働安全衛生法第4条”

「労働者は、労働災害を防止するため必要な事項を守るほか、事業者その他の関係者が実施する労働災害の防

止に関する措置に協力するように努めなければならない。』

労働災害の発生率が高いということは、それだけ従事する労働者が高い危険にさらされているということを表しています。

労働災害を防止するためには、事業者と労働者が共に協力していかなければ、本当の意味での労働災害の防止には繋がりません。

そのため、軽種馬牧場の事業者及び担当者は、建設業、製造業、林業、漁業以上に労働災害を起こさないために様々な方策を施す責務があり、労働者各人はその方策に協力して、より産業として発展するよう努めることが大切です。

労働災害の再発防止対策（省みる活動）

浦河労働基準監督署では、管内（日高7町）の軽種馬牧場における高い千人率の現状から、まずは労働災害に対して一つ一つ省みる活動を正しく行うよう、令和3年2月より、従来、各牧場に送付していた再発防止対策書の中身を大幅に改定しました。

そして、労働災害の内容に応じて、その都度、再発防止対策を検討・実施するよう管内の軽種馬牧場に求め、その結果を提出するように促しています。

残念ながら、いまだ複数回の提出督促に応じない牧場（生産牧場、育成牧場、生産・育成総合牧場いずれも）が複数存在するところですが、全体の提出率は80%を超えているところではあります。

再発防止対策は、様々な経験を持つ者が複数人集まり意見を出し合い、それを活字化して記録に残す事に意味があります。

再発防止対策の検討会に参加した者が、検討会を通して災害を起こさないためには、“何をすべきか”“どのようなことに注意すべきか”を一人一人が考えるための機会でもあり、この検討会は次に説明するリスクアセスメントの活動を行う上での重要な下地を形成するための物です。

リスクアセスメントの重要性（予測する活動）

リスクアセスメントとは、事業場にある危険性や有害性の特定、リスクの見積り、優先度の設定、リスク低減

措置の決定の一連の手順をいい、事業者は、その結果に基づいて適切な労働災害防止対策を講じる必要があります。

従来の労働災害防止対策は、発生した労働災害の原因を調査し、類似災害の再発防止対策を確立し、各現場に徹底させていくという手法が基本でした。

しかし、結果として災害が発生していない現場であっても潜在的な危険性や有害性は存在しており、これが放置されると、いつかは労働災害が発生する可能性があります。

そこで、厚生労働省では平成17年に労働安全衛生法を改正し、当時、すでに欧州各国において行われていたリスクアセスメントの考え方を導入し、従来の過去の災害から学ぶ安全管理から、危険性（リスク）を未然に除去・低減する先取り型の安全管理へと転換を図りました。

現在では、機械産業である製造業のみならず、建設業、林業などの産業でも労働災害の防止活動として慣例化しています。

リスクアセスメント導入による効果は以下の通りです。

リスクアセスメント導入による効果

- ①職場のリスクが明確になります**
職場の潜在的な危険性・有害性が明らかになり、危険の芽（リスク）を事前に摘むことができます。
- ②リスクに対する認識を共有できます**
リスクアセスメントは現場の作業者の参加を得て、管理監督者とともに進めるため、職場全体の安全衛生のリスクに対する共通の認識を持つことができるようになります。
- ③安全対策の合理的な優先順位が決定できます**
リスクアセスメントの結果を踏まえ、事業者はすべてのリスクを低減させる必要がありますが、リスクの見積もり結果などによりその優先順位を決めることができます。
- ④残ったリスクに対して「守るべき決めごと」の理由が明確になります**
技術的、時間的、経済的にすぐに適切なリスク低減措置ができない場合、暫定的なルールを定めた上で、対応を作業者の注意に委ねることになります。この場合、リスクアセスメントに作業者が参加していると、なぜ、注意して作業しなければならないかの理由が理解されているため、守るべきルールが守られるようになります。
- ⑤職場全員が参加することにより「危険」に対する感受性が高まります**
リスクアセスメントを職場全体で行うため、他の作業者が感じた危険についても情報が得られ、業務経験が浅い作業員も職場に潜んでいる危険性・有害性を理解することができるようになります。

働き方改革関連法について

軽種馬牧場については、畜産業という扱いのため所属労働者は、労働基準法上の労働時間、休憩及び休日に関する規定は適用されません。

しかし、年次有給休暇にかかる規定の適用はされます。

年次有給休暇については、要件を満たせば必ず発生するため、仮に労務担当者や事業者が「うちの会社に有給はない」と主張をしたとしても、一定要件を満たした全ての労働者に取得する権利があります。

年次有給休暇の付与日数

(1) 通常の労働者の付与日数

継続勤務年数(年)	0.5	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5以上
付与日数(日)	10	11	12	14	16	18	20

(2) 週所定労働日数が4日以下かつ週所定労働時間が30時間未満の労働者の付与日数

	週所定労働日数	1年間の所定労働日数*	継続勤務年数(年)						
			0.5	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5以上
付与日数(日)	4日	169日~216日	7	8	9	10	12	13	15
	3日	121日~168日	5	6	6	8	9	10	11
	2日	73日~120日	3	4	4	5	6	6	7
	1日	48日~72日	1	2	2	2	3	3	3

※週以外の期間によって労働日数が定められている場合

年次有給休暇が付与される要件

年次有給休暇の発生要件



雇入れの日から6か月継続勤務



全労働日の8割以上出勤

また、年次有給休暇については、働き方改革関連法として労働基準法が改正され、平成31年4月から全ての企業において、年10日以上年次有給休暇が付与される労働者（管理監督者を含む）に対して、年次有給休暇を最低でも【年5日】取得させることが義務付けられました。

合わせて、年次有給休暇の時季、日数及び基準日を労働者ごとに明らかにした書類（年次有給休暇管理簿）を作成し、年次有給休暇を与えた期間中及びその期間の満了後3年間保存しなければなりません。

なお、就業規則等の規則を整備したうえで、事業者が有給休暇の時季指定をしたにもかかわらず、労働者がこれに従わず、自らの判断で出勤し、事業者がその労働を受け入れた場合でも、結果として年次有給休暇を取得したことにならないため、年次有給休暇は、労働者の心身のリフレッシュを図ることを目的としています。

人間は機械ではありませんので、労働災害防止の観点

からも、きちんと労働者に説明してリフレッシュさせることはとても大切なことです。

外国人労働者について

軽種馬産業において、昨今は多数の外国人労働者が大切な人材として様々な牧場で活躍しています。

外国人労働者と日本人事業者の間での大きな課題として挙げられるのは、相互のコミュニケーションです。

外国人労働者が分かるように母国語での労働条件通知書を労働者自身に渡すことはもちろん、労働災害防止のために、再発防止対策及びリスクアセスメントを行う上では言語コミュニケーションの問題を解決することは急務です。

事業者及び牧場の担当者は、普段の業務以上に災害発生理由、どのような考えでいるかなどについて詳細に外国人労働者と対話する必要があるためです。

管内では、専属で通訳の者を雇い入れている牧場も存在します。

その他、事業者は退職時に労働者から退職証明を求められた場合は、いかなる理由であろうと労働基準法第22条の規定に基づき、その労働者の使用期間、業務の種類、その事業における地位、賃金又は退職の事由（退職の事由が解雇の場合は、その理由も含まれます。）について証明書を交付しなければなりません。

また、賃金についても、社会保険料や税金等の源泉徴収他、労使協定により、寮費、食費等事理明白なものを控除する以外の賃金控除は労働基準法第24条の全額払いの原則に違反することもあるため注意が必要です。

おわりに

安全への近道はなく、終わりもありません。

個々の事業者は、法令遵守はもとより、地道に労働者の労働環境を整備・改善し、時代の変化に応じて安全対策を講じていかなければ、産業全体の発展にも影響します。

馬を調教・育成しているのは人です。

軽種馬産業に関わる全ての人について、産業を支えているのは馬だけではなく人でもあるということを再認識していただき、産業が今後もより発展してくれることを心から願います。

馬に対する特殊画像診断について

(英国・アイルランドの二次診療施設研修を踏まえて)

日本中央競馬会 栗東トレーニング・センター 競走馬診療所 診療課

南 卓人

はじめに

私はJRAが行っている獣医海外技術向上研修の一環として、去る2019年9月から約1ヵ月にわたり、英国およびアイルランドの馬専門病院施設にて研修を行う機会を得ました。研修で学んだ内容は多岐にわたるのですが、その中でも特に「二次診療施設における画像診断」についてフォーカスし、英国・アイルランドでの運用に加え、それぞれの検査概要、および日本での現状を交え3回に分けて記載しようと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

第1回の今回は、まず研修先である各病院の概要と診療体制からご紹介したいと思います。

研修先二次診療施設の概要紹介

【英国】

1) Newmarket Equine Hospital (NEH)

2) Rossdales Equine Hospital (Rossdales)

上記2病院は英国競馬産業の中心地であるサフォーク州・ニューマーケットに位置しています。NEHは市街地南西部でニューマーケット競馬場やナショナルスタッドにほぼ隣接する場所にあり、Rossdalesも市街地北部の郊外にあります。ニューマーケット近郊で馬の全身吸入麻酔が可能な病院はこの2ヵ所のみで、両病院とも世界的に有名な診療施設です。英国内には全身麻酔での手術が可能な診療所が20ヵ所程度ありますが、両病院の評判を聞きつけ、患馬はニューマーケット近郊のみならず英国全土から集まるようです。このため、ニューマーケット近郊の馬の繋養頭数はサラブレッド競走馬を中心に3,000頭程度ですが、両病院での年間手術数は計2,000件を超えています。患馬の品種もサラブレッド競走馬から愛玩用ポニーまで、非常に多様でした。

【アイルランド】

3) Fethard Equine Hospital

南部・マンスター地方のティペラリーという町にあり

ます。近隣には著名なクールモア・スタッドがあり、アイルランド国内におけるクールモアグループの二次診療を引き受けている診療所として有名です。

4) Troystown Greyabbey Equine Veterinary Services

東部・レンスター地方のキルデアという町にあります。この地域はアイルランドにおける競馬産業の中核地の一つであり、近隣にはアイルランド最大の競馬場であるカラ競馬場があります。

この4施設の年間手術件数と在籍スタッフの概要を図2に示しています。今回研修したいずれの施設でも、往診を主体とした一次診療を行うセクションがあり、多数の担当獣医師が在籍していますが、本誌面では病院内における診療（二次診療）についてのみご紹介します。いずれの病院でも、二次診療に専門に従事する獣医師の数は多くても10名程度で、それぞれ認定医・専門医資格を持っています。その中で、画像診断、外科手術、内科療法、あるいはリハビリテーションというように、得意分野に応じてある程度役割分担がなされています。この少人数で毎日多数実施する画像診断や、年間1,000~2,000件程度の手術や各種検査を実施するため、各施設ともインターン、レジデントあるいはテクニシャンと呼ばれる方が多数在籍しています。今回の研修先におけるそれぞれの役割について、以下簡単に記載します。

・インターン：大学在学期間中ないしは大学卒業直後に長期（概ね1年間以下）滞在し研修している獣医学生（あるいは獣医師）のことです。それぞれの病院の方針にもよりますが、診療行為はさせずに診療補助・見学とディスカッションを中心としたプログラムをとる病院もあれば、積極的に診療補助をさせることで指導する病院もありました。

・レジデント：一般的には獣医大学卒業後数年間の期間にあたる獣医師のことで、いわゆる“見習い期間”に相当します。こちらは日々の診療へ実際に参加することで知識と経験を積みつつ、認定専門医資格取得に向けてキャリアを積んでいます。人にもよりますが、複数の病院を2年程度のサイクルで経験することが多い



図1 各施設の所在地

		NEH	Rossdales	Fethard	Troytown Greyabbey
年間手術件数		約1,500件	約1,000件	約2,000件	約1,500件
獣医師	二次診療	10	11	6	11
	往診	40	20	13	(二次診療兼務)
	インターンレジデント	5	6	6	4
テクニシャン		20	10	7	5

図2 各施設の手術件数・スタッフの概要 (2019年時点)

ようです。専門医ではないとはいえ、知識と経験をもつ獣医師のため、各病院では実務の面で重宝されている印象を受けました。今回の研修先では、手術助手、全身麻酔あるいは画像診断検査実務を担当していることが多かったです。

・テクニシャン：ナースとも呼ばれていましたが、まさにヒト医療でいうところの看護師に相当するスタッフです。各種診療・検査・手術の補助とその準備、片付けを担当しています。病院によっては包帯の巻替えや創洗浄など、簡単な処置まで担当しています。一般的に、獣医師は病院移籍等による入れ替わりが激しいことに対して、テクニシャンは移籍が極めて少ないという事情があることから、安定的な病院運営実務においては必要不可欠な存在であるといえます。今回研修した施設に所属するテクニシャンの多くは、学生時代に医療スタッフとしての専門教育を受けていることが多く、二次診療施設を運営する上で非常に重要であるバイオセキュリティに関する知識もあります。特にベテランの場合は、実務経験による獣医療知識も非常に豊かで、画像診断分野では、撮影した画像クオリティの良し悪しや再撮影の必要性をある程度判断することができます。これをレジデントやインターンと情報共有することで、若手獣医師への教育も担っているように感じました。

この他にも、入院馬房の清掃を専門にするヤードスタッフなど、さらに多くのスタッフが雇用されていま

す。ヒトの総合病院をご想像いただければわかりやすいかと思いますが、分業化されたスタッフがチーム診療を行うことにより、少数の獣医師でも質の高い医療を提供する体制が可能となっています。

また、来院する患馬は基本的に病院側が預かり、入院中の飼養管理も全て病院側のスタッフにより行います。治療が終了した時点、あるいは予定検査が終了した時点でオーナーが引き取ります。このため、緊急性が高い処置以外については、検査・治療スケジュールを病院側が比較的自由に組むことができます。今回ご紹介する特殊画像診断検査は長時間の検査となることが多いため、この点は非常に効率的と言えるでしょう。

さて、これ以降は紙面冒頭でも記載の通り、特に画像診断について、その中でも特殊画像診断として、CT検査、MRI検査および核シンチグラフィ検査について記載していきたいと思います。研修先に設置されている設備については図3に示した通りです。

MRI

MRI検査はヒト医療分野では広く普及しているため、皆さんの中でMRI検査を実際に受けられた方も多いことと思います。MRIは体内の深部を非侵襲的に画像化できる診断装置であり、後述するCTと並んで非常に有用な検査ツールです。その複雑な原理の詳細は今回割愛させていただきますが、体内の水分や脂肪分に多く含まれる水素原子を利用した検査であるため、検査のメインターゲットは骨ではなく軟部組織（筋肉・靭帯など）になります。一方で、骨であっても損傷（=炎症）がある場合は検出することが可能です。下肢部疾患が多い競走馬には、非常に有用な検査であるといえます。

今回見学したMRI施設は全て、立位鎮静下での撮影が可能なHallmarq社製Hallmarq Equine LimbScanner®でした。従来の馬におけるMRI検査は、ヒト医療に使用されているものと同じ機器を使用しており、患部をガントリー（スキヤナ部分）と呼ばれる部分に挿入して撮影します。撮影中はしばらくの間体動を抑えなければならないこともあり、検査時は馬に全身麻酔をかけて横臥させる必要があります。一般的に馬のMRI検査は、下肢部疾患でかつX線検査や超音波検査等では原因が不明な症例を撮影することが多いため、安全な全身麻酔が可能な施設であっても、麻酔の倒馬導入や覚醒起立の際に原疾患の悪化や致命的な骨折を発症するリスクがあります。本MRI装置は、立位鎮静下で下肢部（概ね前肢



図3 各施設の特特殊画像診断装置 (2019年時点)



図4 立位MRI検査・撮影部分の様子
スキャンする部位に応じた電磁波送受信用コイル(RFコイル)を装着し検査。コイル内の部位が画像化される。RFコイルの高さは約10cm。

は腕節以下、後肢は飛節以下)を撮影可能なため、安全性の高い画像診断装置といえます。Hallmarq社が英国の会社ということもあってか、英国内では約20カ所と多くの診療所に設置されており(アイルランドは2カ所)、特殊画像診断装置の中でも比較的普及しています。JRAでも2013年に栗東トレーニング・センターに、2019年に美浦トレーニング・センターにそれぞれ導入されており、これまで診断が困難であった下部疾患の診断に活用されています。

立位MRI検査では、一度のスキャンで撮影できる範囲に限られる(図4)こともあり、検査前に臨床症状や事前検査に基づいて、撮影範囲を絞り込むことが重要です。研修先のうちNEHでは、まずオーナーと一次診療獣医師による現症の情報に基づき、触診や診断麻酔を伴う歩様検査をルーチンで実施します。さらに症例に応じて、超音波検査や核シンチグラフィ検査を併用して、詳細に原因部位の特定を行う場合もあります。検査は鎮静下で実施します。1カ所・1回のスキャンは概ね5分程度ですが、条件や部位を変えて複数回スキャンしなくてはならないことから、全体の検査時間は1時間程度です。ただし、高精度の画像を得るためには、検査中は可

能な限り撮影部位を静止させておく必要があります、スキャン中に明らかな動揺があると再撮影を余儀なくされます。このため、撮影部位が動揺しにくい蹄部(接地しているため)が比較的容易に撮影可能で、近位方向(体幹側)へ近づくとつれて、撮影に時間を要することが多いです。

検査は3名程度のスタッフ(レジデント1名+テクニシャン2~3名)で行われることが多いようです。撮影した画像データは病院内の共有システムに転送され、画像診断担当の専門医による確認が行われます。この際OKが出なければ再撮影となりますが、先述の通り多くのテクニシャンは得られた画像が診断に適しているか否かをある程度判断できるため、自主的に再検査をしているケースがあったことは印象的でした。

今号ではMRI検査について簡単にご紹介しました。次号からはCT検査、核シンチグラフィ検査を順次ご紹介していく予定です。



BTC 調教場

(浦河高校写真部BTCフォトコンテスト用撮影)



芦田 桃 「陣」



加藤 詩音 「お疲れ様です」



小林 愛花 「夢心地」

チームプレアデス

～エリザベス女王杯 (G I) 優勝馬 アカイト号の育成調教牧場～

今回は第46回エリザベス女王杯 (G I) 優勝馬アカイト号の育成調教を行ったチームプレアデスの星野純一社長にお話を伺いました。



エリザベス女王杯 (G I) 口取り式でのアカイト号と関係者の皆様 (写真はアカイト号馬主の岡 浩二様よりご提供いただきました)。

小誌) アカイト号でチームプレアデスさん初めての G I 制覇となりました。おめでとうございます。

社長) どうもありがとうございます！

小誌) 星野社長は、1991年～2003年の間、ホッカイドウ競馬で通算326勝を挙げたジョッキーとして活躍され、引退後は高昭牧場の育成場長を経て、2009年にチームプレアデスを設立されました。

アカイト号の育成時代はどんな印象でしたか？



星野社長のジョッキー現役時代の写真：旭川競馬で行われた第一回華月賞を制したアイエスビッグ号との優勝写真。写真左の小林元調教師は、現在チームプレアデスの場長としても活躍されている。



今回のアカイト号の活躍でエリザベス女王杯の盾が加わった (写真左)。2016年ダイヤモンドステークス G III を優勝したトゥインクル号や 2016, 2017, 2019年の霧島賞 (佐賀競馬) を優勝したキヨマサ号もチームプレアデスで育成された。

社長) アカイト号は、1歳時と3歳時の2回お預かりしました。1回目は馴致がメインで1歳の秋です。馴致はとてもスムーズで、お利口さんなイメージでしたが、ずば抜けていたわけでもなく、少しピリピリしていて、気の強さも見せながら頭の良さを感じさせていました。2回目は3歳の夏です。2戦目で勝ち上がったものの、その後なかなか勝てない競馬が続いており、前走の矢車賞で僅差の2着となり、休養を挟んで札幌で使うプランでお預かりしました。

小誌) 休養で戻ってきた時の印象は？

社長) 馬体がすごく大きく変わったなあというのが第一印象でした。1歳時は体重452kgでしたが、休養で戻ってきた時は521kgでした。自分が関わった馬のなかで、成長度では No. 1 だと思うぐらい大きく成長していて、絶対勝たせたいという思いで取り組みました。

小誌) アカイト号はどのような調教をしていたのでしょうか？

社長) アカイト号に限らず、ここ何年間か、普通調教の場合は800m砂トラックを利用して、長めのキャンターで心肺機能を鍛えることを重要視しています。ここをしっかりと行うことで速いスピードにも対応できるようになると考えています。また、速めの調教では、1600m直



チームプレアデス全景（厩舎2棟、馬房数30、ウォキングマシン1基・ラウンドベン1棟）

線砂馬場をメインに使用しています。長めから流す調教にぴったりでとても気に入っています。その他、ウッドチップコースの屋内直線や屋内坂路を取り混ぜながら、馬に飽きが来ないように心掛けています。BTC調教場は、11の様々なコースが整備されており、いろいろな経験を馬にさせることができ、日々の整備がとても行き届いているので馬にはとても良いと思います。また、オーナーや調教師さんから芝適性を聞かれることも多いため、実際に芝コースで調教してその感触をじかに伝えられることはとても大きいと感じています。

小誌) 調教で特に気を付けたことはどんなところですか？

社長) ピリピリしやすく、道中結構引っかかるところがあるため、リラックスして走れるように、マインド的なところに気を付けていました。

小誌) 牧場の育成方針などありましたらお願いします。

社長) 一言でいうと、ジョッキーがレースで乗りやすい馬づくりを目指しています。自分がジョッキーであった経験から、乗りたいように乗れない癖馬は全能力を発揮できないことが多いと感じています。例えば、長い距離の場合、途中でハミを抜けるように（いわゆる一息入れることができるように）、オン・オフをしっかりと教えます。レースでも道中力んで走ると最後まで持たないことが多いので、ゆったりと流れに乗るところで楽に力まず走れるということを一番心掛けています。理想は、スタートダッシュした後に、道中は一息入れて楽に走り、最後の直線では騎手の合図に反応してガッチリハミを取って走れるような感じです。

小誌) なるほど、そのような育成方針を実現するためにもスタッフを育てることが必要ですが、BTCの牧場従業員向け短期講習会にプレアデスさんからも参加して頂きました。今日は講習会に参加した加藤さんにもお話を伺います。短期講習会に参加されたきっかけを教えてください。

加藤) 牧場に就職する前は馬に騎乗したことがなく、入社してから騎乗訓練をはじめました。毎日少しずつ教えて頂いていたところ、ちょうど短期講習会が行われると社長に教えて頂き、参加させて頂くことにしました。

小誌) 短期講習会に参加してどのくらい上達できましたか？

加藤) 研修は4週間続けて参加させて頂き、丸馬場でキャンターを少しできる程度の騎乗技術でしたが、最終的にはBTC調教場内の走路をキャンターで走れるように成長できました。



チームプレアデススタッフのみなさん 前列左から2番目が星野社長

小誌) 短期講習会の良かったところを教えてください。

加藤) 教官の方の指示が的確で、伝え方が上手なのでとても分かり易かったです。例えば、ダメなところはこの点で、このように変えたら良くなると具体的に教えて頂けるので、自分でも成長が早かったと感じました。また、BTC調教場で、芝コースに入れたのがとても良かったです。ラチがないからどこかに行ってしまうようで怖いところもありましたが、広大なグラス馬場を走ることができてとても気持ちよかったです。

小誌) BTC短期講習会は今年の秋も実施予定となっていますので機会があったらまたご参加ください。

最後にアカイト号の近況についてお願いします。

社長) 有馬記念も7着と好走し、現在次走に向けて順調に調整中と聞いております。今年もまた活躍してくれるものと期待しています。

小誌) アカイト号とチームプレアデスさんの今後の活躍を祈念しております。今日はお忙しい中、お時間を頂きどうもありがとうございました。

JRA 競馬博物館特別展 「長瀬智之展～肖像画に生きる永遠の名馬たち～」

公益財団法人馬事文化財団 競馬博物館部

廣瀬 薫

JRA 東京競馬場内にある JRA 競馬博物館は、東京競馬開催期間中を中心にさまざまな展示やイベントを開催しています。今回は春の特別展で紹介する画家の長瀬智之さんについてご紹介いたします。

はじめに

JRA 競馬博物館には、歴代顕彰馬たちの輝かしい活躍を振り返る「競馬の殿堂」という常設展示室があります。ここには、クモハタ（1936年生・牡）を始め、セントライト（1938年生・牡）、トキノミノル（1948年生・牡）など、中央競馬の歴史を彩った数々の名馬たちの肖像画が展示されており、その栄誉を讃えています。この「競馬の殿堂」に新たに加わった近2頭の顕彰馬、ロードカナロア（2008年生・牡）とキタサンブラック（2012年生・牡）の肖像画を手掛けたのが、日本では珍しい馬専門の油彩画家である長瀬智之さんです。

馬の画家としての歩み

長瀬さんは、大学卒業後にイラストレーターとして活躍していましたが、1998年に画家へと転身しました。以来、20年以上にわたって数々の名馬たちの姿を描き続けています。

長瀬さんが馬を描くようになったきっかけは、シンザン（1961年生・牡）でした。たまたま好きだったシンザンを描いたところ、その絵を見た方から牧場へ会いに行くことをすすめられ、実際に北海道へシンザンを訪ねます。当時34歳だったシンザンの姿は、歳を重ねて馬体は寂しく映ったものの、深みを増したオーラをまとっていました。その姿に深い感銘を受けた長瀬さんは、その後北海道での長期滞在を恒例化し、馬とともに生活をしながら本格的に馬をモチーフとした絵画制作に取り組むよ



《キタサンブラック》 2021年 油彩・キャンバス F20号
競馬の殿堂展示作品



《創世》 2018年 油彩・キャンバス M50号

うになります。この時期に、サンデーサイレンス（1986年生・牡）をはじめ数多くの名馬に出会い、馬の画家としてかけがえのない時間を過ごしました。

その後の活動は日本にとどまらず、2008年にはアイルランドのクールモアスタッドへ名馬サドラーズウェルズを訪ねます。名馬に出会い、現地の馬事文化に触れることによって視野がさらに広がるとともに、馬の画家とし

世界的に評価を受けている王室画家のスーザン・クロフォード氏に師事し、馬の絵画表現の研鑽を積みました。翌年には、アメリカ・ロサンゼルスへ巨匠フレッド・ストーン氏を訪ねて師事するなど、世界を股にかけて馬の絵画表現の探求を続け、現在ではサラブレッドを中心に数多くの馬の肖像画制作を手掛ける人気作家となっています。

写実表現へのこだわり



《Sadler's Wells》2017年 油彩・キャンバス F20号

長瀬さんの絵の特徴は、たてがみの一本一本に至るまで繊細に描かれたその写実性にあります。静止画でありながらも馬の息遣いやあたたかみが伝わってくるようなリアルな描写が印象的です。ただし、必ずしも全てを写實的に描いているわけではありません。例えば馬の足元に注目すると、馬の影がとても短いことに気がきます。本来ならば、スポットライトを浴びた馬の背後には大きな影が出るはずですが、それをあえて描かないことによって馬の美しいフォルムが引き立つ様に工夫されているのです。また、一般的に馬の絵画は自然風景の中に主役となる馬を配す構図が多く見られますが、長瀬さんの場合は背景も至ってシンプルに仕上げられ、足元の影と同様に、絵を見る人の視線を洗練された美しい馬体のみを集める効果を生んでいます。

長瀬さんはこうした肖像画を描く際に、モデルとなる馬に会いに行くことを大切にしています。馬の姿を肖像画で残す理由は、写真や印刷では表現できない馬に対する愛情や願い、尊敬の念など様々な想いを込めるため

です。モデルとなる馬の姿を正確に描くことはもちろん、馬にかかわる人々の想いを絵筆に込めることに強いこだわりを持ち、生きた馬の姿を肖像画として日々描き続けています。

展覧会開催中に大作へ挑戦

JRA 競馬博物館では、本年4月23日（土）から8月28日（日）まで、長瀬さんの絵画作品を紹介する展覧会「長瀬智之展～肖像画に生きる永遠の名馬たち～」を開催します。名馬の肖像画はもちろん、馬の一瞬の動きを捉えた作品やデッサンなどこれまでに描かれてきた多数の作品が一堂に会し、長瀬さんが描く多様な馬の世界をご堪能いただけます。また、約4ヵ月間の会期中に、展示会場のミュージアムホール内で横幅約6メートルもの大作を公開制作します。テーマは長瀬さんがライフワークとして取り組んでいる英国騎馬隊の黒馬です。白いキャンバスに少しずつ騎馬隊が現れる様子をどうぞ間近でお楽しみください。



《ETERNAL》2021年 油彩・キャンバス F30号
英国騎馬隊をイメージした作品

JRA 競馬博物館では、特別展のほか、企画展「オグリキャップ—今甦る芦毛の怪物—」（4月23日～10月2日）や、「2022年度新人騎手紹介展」（開催中～6月5日）、「第89回日本ダービー優勝馬展」（6月11日～7月31日）を開催予定です。詳細は、当館のホームページでご案内いたします。東京競馬場にお越しの際はぜひご来館ください。全ての絵画作品 ©Tomoyuki Nagase

ハートをつかもう：馬の循環器学（3）

社台ホースクリニック 鈴木 吏

前回の先天性疾患に続き、今回は代表的ないくつかの後天性心疾患をご紹介します。

後天性心疾患

生まれた後に、発生する心疾患です。若い馬でもみられますが、多くは5歳以上の馬で見られます。高齢になるほど罹患率が高まります。

心房細動（AF：Atrial Fibrillation）

馬のパフォーマンスに影響を与える、最もよくみられる不整脈です。

安静時に AF を認める馬は、運動中に心室細動を発症しやすくなります。心室細動は、突然死につながる重大な疾患であり、運動させることはとても危険です。

病態：洞房結節から出されるはずの一定リズムの電気信号が、別の部位から無秩序に発生し、心拍が乱れる疾患です。

馬はもともと迷走神経が優位な動物なため、電気生理学的不均一性を生じやすいことや、心房がとても大きいことなどが発症しやすい要因と考えられています。

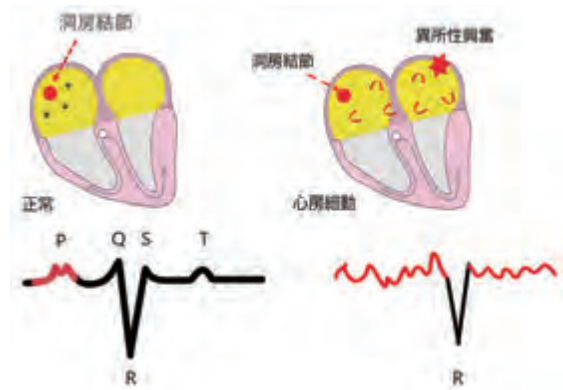
他の病気から心臓に負担がかかり、二次的に発生することもあります。近年では、運動誘発性肺出血との関連性も示唆されています。

症状：レース中の突然な失速、突然な運動能力低下などの症状がみられます。

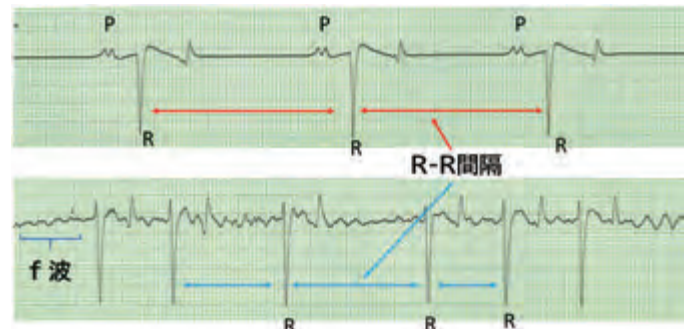
診断：聴診では 'Irregularly Irregular Rhythm；不規則な不規則性' と表現される「ばらばらなリズム」です。音の大きさ、リズムがバラバラになります。

心電図では、① P 波の消失、② f 波と呼ばれる特徴的な波形（洞房結節以外で発生した無秩序な興奮）、③ 不規則な R-R 間隔がみられます。

治療：多くの馬は数時間で自然に治るため、発症後24～48時間は治療しません。48時間以上持続した場合は、すみや



正常（左）と心房細動（右）の電気信号のイメージ図



正常（上）と心房細動（下）の心電図

P 波の消失、明瞭な f 波、不規則な R-R 間隔が認められる。

かに治療を行います。

細動を正常なリズムに戻す治療を除細動といいます。除細動の前には、治療の適応であるか判断するために心エコー検査をおこないます。二次的に発生した AF の場合、治癒率が低く、再発率も高いために治療対象とならないこともあります。

除細動には、薬物的除細動と電氣的除細動があります。薬物的除細動は、抗不整脈薬（硫酸キニジン）を2時間おきに経鼻カテーテルから投与する方法です。キニジンは不整脈の治療薬ですが、安全域が狭く不整脈誘発作用もあります。そのため、必ず心電図をモニターしながら治療を行います。

キニジンは、妊娠馬への安全性が確認されていないので、慎重投与が必要です。また、母乳に移行するため、授乳中の治療はできません。

電氣的除細動は、全身麻酔下で2本の長いカテーテルを

心臓の奥まで挿入して除細動を行う方法です。海外で行われていますが、日本では報告がありません。

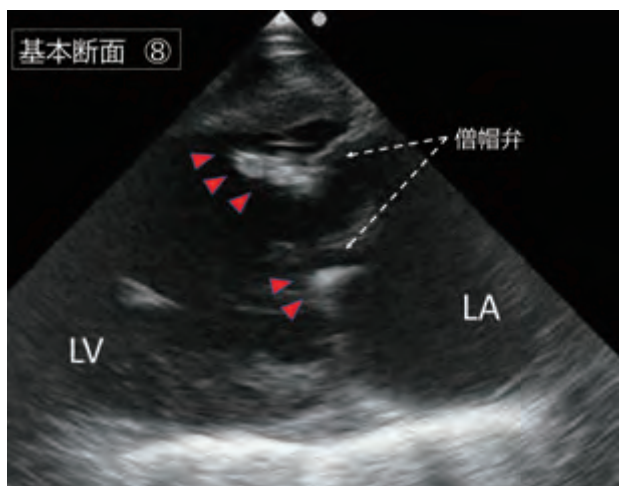
予後: 治癒しても、15~20%の馬が再発します。発症から治療までの期間が長いほど治癒率は低下し、再発率が高まります。除細動後は1週間の休養の後、1ヵ月かけて徐々に運動レベルを戻します。

感染性心内膜炎 (IE : Infective Endocarditis)

病態: 血液中に侵入した病原体が、心臓の弁や腱索(弁を支える構造)に感染し、それらの構造を破壊することで、弁の機能が障害されます。

当歳馬や若い育成馬にみられることが多く、僧帽弁によくみられます。

症状: 発熱・元気消失・不整脈・頻脈・頻呼吸などの症状を認めます。跛行(Shifting leg lameness: 跛行する肢がその都度変化する)や、うっ血性心不全の症状(第一回参照)をみせることもあります。



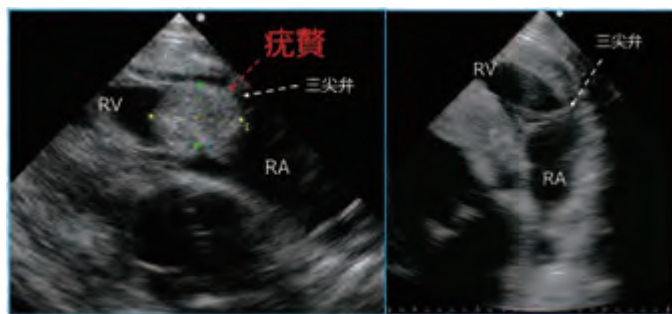
サラブレッド 1歳: 僧帽弁の感染性心内膜炎・僧帽弁に形成された疣贅(矢頭)
・弁の機能不全のために左心房(LA)が著しく拡張している
➔発症から1週間で急性心不全のため死亡した。

診断: 血液検査・聴診・心エコー検査で行います。血液検査では、感染の疑いや、強い炎症反応を認めることがあります。血液の細菌培養検査も行います。

左心系(僧帽弁・大動脈弁)に感染した症例では、明瞭な心雑音が聴取されます。右心系(三尖弁・肺動脈弁)では、心雑音が小さいことが多いので要注意です。

心エコー検査では、弁に付着した疣贅(イボのような盛り上がり)や、弁の肥厚(分厚くなる変化)が観察されます。

治療: 長期の抗菌剤投与が必要です。



サラブレッド 1歳: 三尖弁の感染性心内膜炎
基本断面①と②の中間くらいの断面

左: 発症から3ヵ月 巨大な疣贅が三尖弁に付着(6×4cm)
右: 発症から10ヵ月 疣贅は消失し、弁の機能不全はわずか
➔3歳で競走馬デビューし、5戦2勝の成績だった。

予後: 抗菌剤による感染のコントロールが大切ですが、感染が収束しても、炎症が治まる過程で弁の繊細な構造が破壊され、機能が損なわれてしまいます。正常では薄くて柔らかい弁ですが、厚く硬い弁に変化します。この変化の程度によって、予後が大きく変わります。

そのため、数週間おきの定期的な心エコー検査をおこないます。血圧の高い左心系では予後が悪く、急性心不全で死亡することもあります。血圧の低い右心系では、治療後に競走に出走できることもあります。

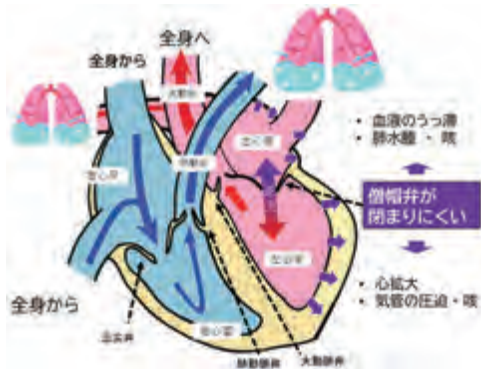
~ 図中の省略文字 ~ LA: 左心房 LV: 左心室
RV: 右心室 RA: 右心房 Ao: 大動脈 IVS: 心室中隔

僧帽弁閉鎖不全症 (MI : Mitral Insufficiency) 僧帽弁逆流 (MR : Mitral Regurgitation)

病態: 僧帽弁の機能が損なわれ、収縮期に左心室から左心房へと血液が逆流します。原因は、弁の退行性変化(加齢性)、腱索の断裂、感染性心内膜炎、弁尖逸脱(弁の閉じる位置がずれる)、弁輪拡張(心臓が大きくなることで完全に弁が閉じられなくなる)などです。

軽度なうちは、左心室が正常よりもわずかに拡張し、大きく収縮することで全身にたくさん血液を送り出そうとします。これを代償機転と言い、この状態が持続することは心臓の負担になります。病態の悪化にともない、代償ができなくなり、心臓の収縮力が徐々に低下して、肺高血圧が進行し、最終的に心不全になることもあります。

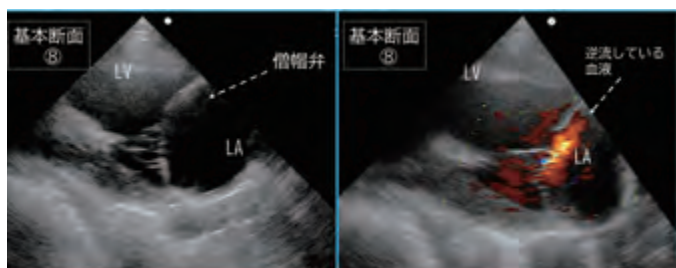
症状: 程度によって症状は大きく変わります。軽度であれば、競走馬として勝利する無症状の馬も珍しくありません。重度になると、発咳、頻呼吸、運動不耐などの心不全症状がみられます。



ゆっくりとした病態の進行であれば、心臓は代償しながら対応しますが、腱索断裂のような急激に病態が悪化した場合は、心臓がその変化に対応する時間的余裕がないため、症状は急激かつ激しいものとなります。これは急性（非代償性）心不全と呼ばれる状態で、重度の肺水腫によって鼻や口からの泡沫の排出を認め、突然死亡することもあります。**診断**：聴診と心エコー検査を行います。聴診では、僧帽弁領域における収縮期心雑音が聴こえます。

心エコー検査では、原因の調査、逆流血流の確認、心臓の形態的变化などを評価します。カラードプラやパルスドプラによって重症度を把握することは、予後判定やその後の経過観察にとってとても大切です。

残念ながら、代償されている状態から、心不全へ移行するかどうか、あるいは心不全になるまでの期間がどの程度あるのかを予測することはできません。

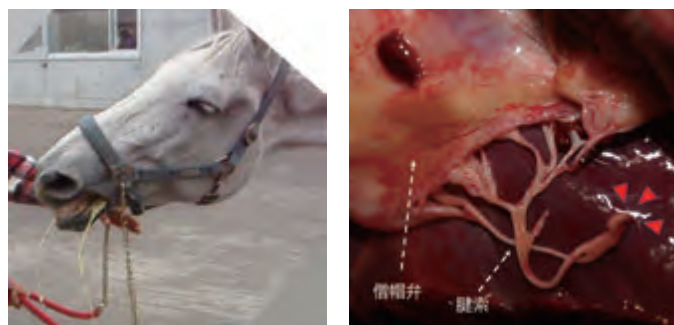


サラブレッド 2歳：軽度の僧帽弁閉鎖不全症
手術前検査（聴診）にて偶然判明
➡カラードプラで示される異常血流（右図）は、弁の直上に限局している。競走馬としてデビューした（1勝）。

治療：うっ血性心不全には、心臓の負担を軽くする薬（ACEインヒビター：ベナゼプリルなど）の経口投与が効果的です。さらに、フロセミドなどの利尿薬を併用することもあります。
予後：定期的な聴診を行い、心雑音の変化・安静時心拍数の増加・運動能力の低下を認めた際は、心エコー検査をおこないます。軽度でも、少なくとも2年に1回の定期検査が推奨されています。中～重度の症例では、常に心拍数に注意を払い、1年に1回は運動時心電図検査と心エコーの定期検査を行きましょう。



サラブレッド 当歳：重度の僧帽弁閉鎖不全症（急性心不全）
馬房内で急に呼吸困難・転倒、鼻からの泡沫の排出、発咳
➡左心室と左心房が著しく拡張している
左心房内に、大きな僧帽弁逆流が広がっている。



セルフランセ 12歳：僧帽弁の腱索断裂（急性心不全）
➡発咳と泡沫の排出 ➡僧帽弁の腱索が断裂している

大動脈弁閉鎖不全症 (AI : Aortic Insufficiency) 大動脈弁逆流 (AR : Aortic Regurgitation)

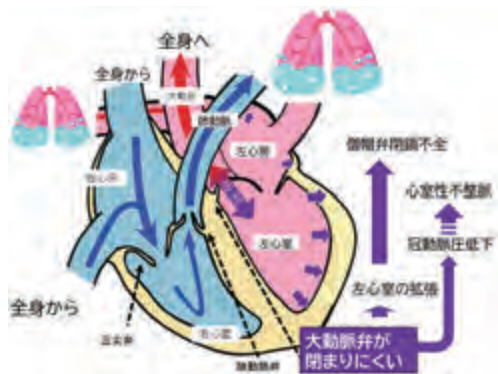
病態：10歳以上の馬で最もよくみられる疾患です。大動脈弁の退行性変化（加齢性変化）、弁尖逸脱（弁の閉じる位置がずれる）、感染性心内膜炎などが原因となり、大動脈から左心室に血液が逆流します。

ARは、ゆっくり病態が悪化する疾患です。病態が悪化すると、ARに伴ってMRや心筋機能の低下を引き起こしますが、それらを併発しなければ運動不耐や心不全などの症状はみられません。重症化してからはじめて気づかれることの多い疾患です。

症状：軽い場合は、症状がありません。正常なパフォーマンスライフと寿命が期待できます。一方で、10歳未満で中～重度のARを認める馬は、パフォーマンスライフが短くなるリスクが指摘されています。

ARでは、拡張期に大動脈の血液が左心室に漏れてしまうため、拡張期血圧（下の血圧）が低下します。心筋機能が損なわれていない場合、左心室は通常の1回拍出量に加えて'漏れてきた血液'も一緒に押し出すため、収縮期血圧（上の血圧）が上昇します。そのため、末梢の血管で触ることのできる脈圧を強く感じるようになります。

他の組織と同様に、心臓も酸素を必要とします。心臓に酸素を供給する血管を冠動脈といいます。冠動脈は、拡張期に大動脈から血液が流れます。AR では、拡張期に大動脈圧が低下するため、冠動脈へ流れる血液量が低下します。安静時には問題ありませんが、運動や交配で心拍数が増えると必要な酸素量が増えるため、相対的な酸素不足となって不整脈を誘発し、心臓突然死につながると考えられています。種馬は、交配時に心拍数が160回/分まで上昇します。加齢にともないAR の罹患率は上昇するため、特に注意が必要だと考えています。



診断: 聴診では、大動脈弁領域にて拡張期心雑音が聴こえます。心エコー検査では、原因の調査、逆流血流の確認、心臓の形態的变化などを評価します。

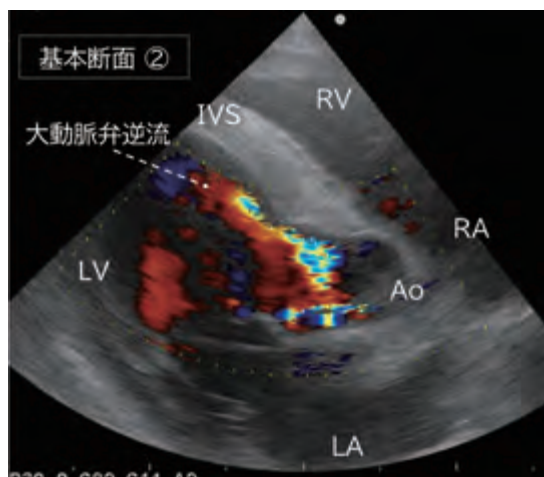
中～重度のAR を認める馬、あるいはパフォーマンス異常を認める馬は、運動時心電図検査が推奨されます。

治療: MR と同じです。病態初期からのACE インヒビター投与の効果は証明されていませんが、臨床的には進行を遅らせる効果があるのではないかと考えられています。

予後: エコー検査の結果から、予後を正確に予測することはできません。軽度のAR であれば1年に1回の定期検査をお勧めします。中～重度のAR では、年2回の心エコー検査を行い、進行が遅いことが確認出来たら、年1回のエコー検査と運動時 ECG を行うことが推奨されています。重篤なAR を有する馬では、心臓突然死の危険性があるため、特に子供を乗せた騎乗・競技・レッスンなどに供用すべきではありません。

その他の後天性心疾患

トレーニングされた馬では、軽度な三尖弁閉鎖不全がよく認められますが、問題となることはほとんどありません。両心不全の結果としてみられた場合は、肺高血圧を示唆する重要な所見となります。



サラブレッド種雄馬 20歳：中等度の動脈弁逆流
数年前から経過観察中／特に心不全を疑う症状はない
➡左心室が軽度に拡張している

大動脈破裂は、種馬などの高齢馬が突然死する最も一般的な原因です。現在は、その危険性の把握や予防が困難ですが、3D エコーによる大動脈の研究が注目されてきていますので、今後は発症との関連性を示す研究結果がもたらされる可能性も大いにあります。

さいごに

馬の循環器の生理学・検査方法・代表的な疾患について紹介しました。ちょっと難しい分野ですが

- ①馬に循環器疾患があること
- ②循環器疾患があっても、経済的価値がすべて失われるわけではないこと(つき合い方を知る)
- ③循環器疾患の症状を知ること
- ④検査の価値を知り、必要な検査を行うこと
- ⑤馬と騎乗者の安全を十分に確保する重要性を理解すること

これらを理解していただけたのであれば、大切なことが伝わったのだと思います。

馬に携わる方々にとって、本稿が日常の管理に少しでも役に立つものとなれば素晴らしいことです。馬のWelfare 向上にもつながり、私にとってもこれ以上の喜びはありません。

最後に、執筆に当たり、ご協力いただいた多くの方々と馬たちに心からお礼を申し上げます。

MAHALO !!



三嶋牧場 ～第22回チャンピオンズカップ(GI) 優勝馬・最優秀ダートホース受賞 テーオーケインズ号の育成調教牧場～

今回は第22回チャンピオンズカップ(GI) 優勝馬テーオーケインズ号(2021年度JRA賞 最優秀ダートホース受賞)の育成調教を行った三嶋牧場のスタッフの方々にお話を伺いました。



三嶋牧場育成厩舎全景(厩舎2棟、馬房数52、ウォーキングマシーン2基、ラウンドペン2棟)その他、西舎共同育成場も利用



テーオーケインズ号の馴致を担当したイヤリングマネージャーの三瓶さん

また、特に馬体の動きのバランスがすごく良かったですね。人で言う右利きや左利きといった動きの癖が馬にも多少あるものなのですが、ケインズの馴致時には前後左右の動きに偏りがなくバランスの良さが際立っていました。最初に騎乗した時も馴致で抱いたイメージ通りでした。

小誌) 馴致時に特に重要視していることはありますか？

三瓶) 扱いやすい馬、人のことが好きな馬をつくるということは常に頭に入れています。また、馴致中・馴致後も、馬の操縦性を養うことにはかなり時間をかけて確認作業をしています。

小誌) 次に騎乗調教を担当したトレーニングマネージャーの藤井さんに伺います。騎乗を始めた時の印象はどうでしたか？

藤井) 普段はおとなしく、人に対してはとても従順だったのですが、騎乗初期の頃は、他の馬を怖がったり、ちょっとした物音や騎乗者の動きにびっくりしたりするところがあり、牡馬だったけれど牡馬みたいに敏感な一面もありました。ただ、BTC 調教場は様々な刺激が多いところなので、そのような刺激に慣れていくのは早く、呑込がとても良かったです。

小誌) テーオーケインズ号はどのような調教をしていたのでしょうか？

藤井) スタートが遅く、他の馬よりゆっくり目で、BTC 調教場の利用も11月後半でした。BTC 調教場は屋内馬場が完備され、冬期でも十分なトレーニングが行えるた

小誌) 三嶋牧場さんは、戦前から馬産を行ってこられた老舗牧場(1960年に法人化)で、1999年には育成部門を開設。今年には育成馬のテーオーケインズ号がチャンピオンズカップ(GI)を、生産馬のダノンキングリー号が安田記念(GI)を制覇するなど生産・育成両部門での活躍が続いています。まずは、テーオーケインズ号の馴致を担当したイヤリングマネージャーの三瓶さんにお話を伺います。テーオーケインズ号で三嶋牧場育成部門として初めてのGI制覇となりました。おめでとうございます。

三瓶) どうもありがとうございます！

小誌) テーオーケインズ号を馴致した時はどんな印象でしたか？

三瓶) 馬の成長を待って入厩して来たこともあり、その年の最後に馴致した馬でした。馴致をした時の僕の印象は、「真っ白」という感じでした。真っ白な半紙に自分で字を書いていくようなイメージの馴致で、苦労らしい苦労がなかったと記憶しています。教えられたことをどんどん吸収し、覚えるのがものすごく速く、とても頭がいいと感じました。いままで馴致した中でも手がかからなかった馬のトップクラスでした。

め、屋内600mトラック砂馬場や屋内1000m坂路ウッドチップ馬場を中心に基本的な体力作りを行いました。ケインズに限らず、4月以降屋外の馬場がオープンすると、1200・1600m直線砂馬場をメインに調教を行います。この馬場は他の馬に追い抜かれることがなく馬が集中しやすいため、最初に屋外馬場に慣らすのにとても良いと考えています。屋外の馬場に十分慣れてくると競馬場と同規模の1600mトラック砂馬場を使い入厩に向けた準備を行います。ケインズの場合は5月頃からスピード調教を行いました。初めてスピード調教を行った際、ケインズはとても良く動きました。けっこう繊細なところも見せていただければ、そのギャップに驚いたことをよく覚えています。

小誌) 騎乗調教を行う上で大切にしていることはありますか？

藤井) 総合牧場なので、繁殖・中期育成のスタッフの思いを大事するということと、「馬の邪魔をしない育成」を心がけています。その馬の持っているポテンシャルを減じることなく、持っている能力を100%発揮できるようにするという事です。また、2歳で完成してしまう馬はほぼいないので、馬にも成長する余力を残すという意味でもあまり攻めすぎず、余裕のある馬体を保つように心掛けています。つついバリバリとやりたくなりますけどね(笑)。

小誌) 今日はBTC 研修第37期修了生の佐藤あかねさんにも来て頂きました。牧場の仕事にはもう慣れましたか？



テオーケインズ号の騎乗調教を担当した
トレーニングマネージャーの藤井さん

佐藤) 研修でお世話になった教育用馬と育成馬ではかなり違いがあると覚悟はしていましたが、敏感さや俊敏さなどは想像以上でした。BTC 研修での経験はありましたが、牧場に就職してゼロからのスタートという気持ちで取り組んでいます。

小誌) 自分を振り返って、今研修中のBTC 研修生に声をかけるとしたらどんな言葉をかけますか？



BTC 調教場 屋内 600 mトラック砂馬場で騎乗中の
佐藤あかねさん:左写真右端(BTC 研修第37期修了生:
2020年4月修了)

佐藤) 一つ一つを大事にとということです。1年間という限られた期間内に多くのことを学ぶのですが、大事なことが多いので一つ一つをしっかりと丁寧に自分の物にして欲しいと思います。研修時の教官の指導や、何気なくたまたま言ってもらった一言が、その時良く分からなくても牧場で働き始めてから、このことを言っていたのか!と思うことが良くあります。今まで頭ではわかっていた知識が感覚的に理解できるようになり、自分の中でも成長を感じています。今でも、研修中に指導して頂いたことを思い出し、いろいろと試しながら騎乗しています。研修では一鞍一鞍無駄にしないで、教官の一言を大事に胸に刻んでおくと、今後に大きく役立つと思いますよ。

小誌) 現研修生に良く伝えておきますね。今後とも頑張ってください。藤井さん、最後にテオーケインズ号の近況についてお願いします。

藤井) 現在次走に向けて順調に調整中で、今年もまたダート路線中心に大いに活躍してくれるものと期待しています。

小誌) テオーケインズ号と三嶋牧場さんの今後の活躍を祈念しております。今日はお忙しい中、お時間を頂きどうもありがとうございました。



三嶋牧場育成スタッフのみなさん 左から3番目が佐藤さん、
4番目が藤井さん、右端が三瓶さん

浦河高等学校写真部 BTC フォトコンテストについてご紹介させていただきます。

BTC フォトコンテストは BTC 調教場内での調教風景、施設などの写真の撮影を浦河高等学校写真部に依頼し、その写真を審査・表彰をするコンテストです。提出のあった作品は浦河町の施設で展示するほか、当センターのパンフレット等の PR で使用させていただいております。

浦河高等学校の写真部の皆さんは、多くの作品展に出品して優秀な成績を収めているほか、その作品は浦河町の様々な PR に使用されるなど活躍されています。

今回の撮影は6～10月の土曜日や祝日、夏休みを利用し、41名の生徒が撮影を行いました。撮影にあたり昨今のコロナウイルス感染症対策として、撮影人数の制限やマスクの着用、アルコール消毒などを実施し、数少ない撮影機会の中で、高校生ならではの目線、工夫を凝らした作品を提出していただきました。

今回から特別賞として日高振興局賞が新たに加わり、5名が表彰されました。

投票の結果以下の通り受賞作品が決まりましたのでご紹介させていただきます。

【理事長賞】

作品名「お疲れ様です。。。」

撮影者：飯田 涼音さん

「今回このような賞をいただき、すごく嬉しく思っています。3年間BTCで撮った写真の中で、最も馬との距離が近く、かわいい面を引き出せたお気に入りの一枚です。はじめは馬と近い距離で撮影することが苦手でしたが、これまでの経験を通して、近づいて撮影できるようになり、成長を感じています。今年で卒業ですが、BTCで培った技術でこれからも動物の写真を撮っていきたいと思います。」



【優秀賞】

作品名「駆ける」

撮影者：作佐部 里咲さん

「初めての受賞で嬉しいです。今回初めて白黒写真に挑戦

し、カッコよく仕上がりました。馬と近い距離での撮影など日常では馬と触れ合う機会がなかったので、色々な体験ができてうれしかったです。」

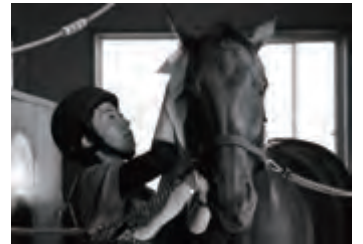


【優秀賞】

作品名「愛情」

撮影者：志摩 ひなたさん

「初めてこのような賞をいただきうれしいです。普段これほど近づくことがなかったので、活動を通して体験出来てうれしかったです。」

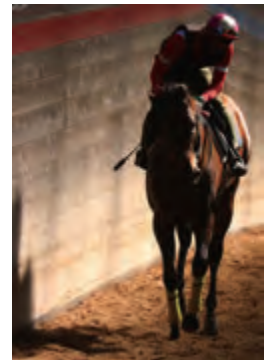


【特別賞：JRA 賞】

作品名「信頼」

撮影者：佐々木 勇太さん

「1年生の時から人と馬との関係性を写真に収めることを自分のテーマとしており、広いBTCの中でライティングに工夫を凝らして撮った作品が選ばれてうれしいです。」



【特別賞：日高振興局賞】

作品名「この夏とともに」

撮影者：加藤 沙季さん

「3年間を通して、BTCに行ける回数が多く、馬の走っている姿など写真をたくさん撮ることで、撮影の技術が上がったと感じています。今回自然と馬をテーマとして、日高の自然の広さなどが素敵だと評価されてうれしいです。」



コンテストに参加していただいた写真部の皆様、また、大変お忙しい中、撮影にご協力いただいたBTC調教場利用者の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

アイルランドの生産育成の現状

⑥ アイルランドの育成

日本中央競馬会 日高育成牧場 業務課 診療防疫係長

岩本 洋平

前号では、ヨーロッパにおける1歳市場についてご紹介しました。セリで取引された馬は、新しいオーナーの馬として馴致が開始されることとなります。一方、セリで取引をされなかった馬たちも同様に育成が開始されます。今号では、私が研修中に見てきたアイルランドにおける競走馬の育成についてお話していきたいと思います。

大手牧場の育成部門

アイルランドにおいても、大手牧場で生産された馬の多くは、自家生産馬として牧場内の育成部門において馴致が開始されています。私の研修先の1つであったクールモア・スタッドにおいても育成が行われており、その流れは図1のようになります。まず、離乳までの初期育成は繁殖厩舎で行われ、そこでは基本的な取扱いを教えることとなります。離乳は当歳秋に実施され（写真1）、繁殖牝馬が別の厩舎に移動します。そして、離乳後は1頭での引き馬を教えることとなります。その後、繁殖厩舎では翌年の繁殖シーズンに向けた準備が始まることから、当歳冬にはイヤリング部門に移動し、本格的に中期育成が開始されます。

イヤリング部門においては昼夜放牧で管理され、引き馬や手入れを教えることとなります。アイルランドは、厳冬期であっても放牧地に青草が生い茂っており、積雪を認めることもまれであることから、通年で昼夜放牧が実施されています。そのため、当歳の時期に馬服を着る機会はないようですし、北海道で繋養されている当歳馬に比べて良いコンディションを維持できていた点はうらやましい限りです。

後期育成は1歳市場が終わる1歳秋ころから本格的に開始されます。クールモア・スタッドにおいては、ドライビングや鞍付けといった馴致についてはイヤリング部門のスタッフが実施していますが、騎乗馴致はクールモア・スタッドの競走馬厩舎であるバリードイルのスタッフがイヤリング部門に来て行います。この仕組みはアイルランドの競馬システムと関係しています。アイルランドをはじめとするヨーロッパの平

当歳秋 当歳冬 1歳秋 1歳冬 2歳春
離乳 移動 馴致開始 入厩 競馬出走

繁殖厩舎

イヤリング

バリードイル

- ・ 離乳は繁殖牝馬を移動
- ・ 当歳冬にイヤリングに移動
- ・ 1歳秋より馴致開始
- ・ 騎乗馴致ではバリードイルよりスタッフが移動
- ・ 平地競馬シーズン終了後に3歳馬が売却・引退し、1歳馬がバリードイルに入厩

図1 クールモア・スタッドにおける育成の流れ



写真1 離乳後の当歳馬の様子

地競馬は11月までには終了します。そのため、厩舎の3歳馬の多くは現役馬セールで売却されて他の厩舎に移籍したり、海外に輸出されたりします。また、競走成績の優れた馬については、種牡馬や繁殖牝馬となるために、競馬シーズンが終了した時点で引退となります（写真2）。このように馬が移動していくにつれて、バリードイルの騎乗スタッフの手が空くことから、イヤリング部門に移動して騎乗馴致を行うこととなります。その後、厩舎の馬房に空きができると、順次1歳馬がバリードイルに移動していき、本格的な育成・調教が開始されて、2歳春のデビューを目指すこととなります。



写真2 引退して繁殖厩舎に移動した牝馬

育成業者による後期育成

大手生産牧場の育成部門を利用できない馬たちについては、オーナーが育成業者に後期育成を依頼することになります。オーナーから1歳馬を預託してもらい、競走馬厩舎へ移動するまでの後期育成やブリーズアップ・セールへの上場を目指す専門の育成業者がある一方で、先ほどお話した通り、アイルランドの平地競馬シーズンは11月ころに終了することから、競走馬厩舎が後期育成を行うこともあります。今回は私が研修を行ったリチャード・ブラバゾン厩舎についてご紹介します。

リチャード・ブラバゾン氏は、アイルランドの平地競馬のメッカであるキルデア州のカラ競馬場の近くに厩舎を構えています。ブラバゾン氏の祖父であるセシル・ブラバゾン氏は著名な調教師であり、父親のオーブリー・ブラバゾン氏はチェルトナムゴールドC（ナショナルハント競走の最高峰のレース）の3連覇を達成した名馬コテージレイクの騎手として活躍するなど、競馬一家の一員として生まれた方です。調教師としても活動する一方で、育成業者として成功を収めています。ブラバゾン氏が育成した馬の中には、日本のエリザベス女王杯の連覇を含むG1競走6勝をあげたスノーフェアリーや香港の年度代表馬にも輝いたエグザルタントが含まれます。

ブラバゾン氏の厩舎が忙しくなるのは、主要な1歳市場が終わる10月初旬からとなります。付き合いのある馬主や調教師が落札した馬が、セリが終わるとすぐに厩舎に移動してきます。中にはセリで使用したヒップナンバーが付いた状態の馬もあり、馬を間違えないために数日付けたままの場合もありました（写真3）。前述のように活躍馬を輩出した実績があることから、入厩馬の中には血統の優れた馬もお

り、セリで数千万円の値が付いた馬やスノーフェアリーの産駒も含まれていました。最終的には約60頭の育成馬が入厩するので、それに合わせて追加の人員を雇用することになります。新たに雇用される人材は、競走馬厩舎で働いていた者、生産牧場で勤務していたが育成の経験を積みたい者など様々です。他の育成業者も同じような状況だと思われませんが、人材が流動的な中で安定して成果を出すには、優れた手腕が必要であると感じました。



写真3 ヒップナンバーが付いた状態の1歳馬

リチャード・ブラバゾン厩舎における後期育成

ブラバゾン氏の厩舎には、ウォーキングマシーンが2つ、角馬場と円馬場が1つずつ、1周400mのオールウェザー馬場が1つあります。これに加えてカラ競馬場周辺の共用調教施設を使いながら育成を進めていくことになります。このように人材面も施設面も、必ずしも整っている状況ではないこともあり、確立された育成プログラムはなく、馬に合わせて創意工夫を行いながら馬を育てています。ブラバゾン氏が重要視している育成方針としては、「馬をリラックスさせること」と「調教よりも馴致を優先すること」です。

競走馬を調教する際にも、ブラバゾン氏は「馬をリラックスさせること」をとっても重要視しています。ヨーロッパの競馬は、道中の折り返いが重視されていることは有名ですが、育成期においても馬をリラックスさせて育てていきます。怖がりな馬に対しては忍耐強く、馬が納得するまで時間をかけて馴致を行うことを心掛けており、場合によってはブルーシートを用いた刺激への馴化も行っていました（写真4）。厩舎で馴致を行っている馬は誰でも取り扱えるようにすることを目指しており、週末に手伝いに来ていた知り合いの高校生も馴致を手伝っています（写真5）。

このように「馬をリラックスさせること」を重要視していることもあり、育成の流れは馬に合わせて急がずに行います。どの馬も円馬場でのランジグ、ローラーの装着と鞍付け馴



写真4 ビニールシートを用いた刺激への馴化



写真5 馴致を手伝う高校生

致、ドライビング（写真6）を必ず実施してから、騎乗に移ります。それぞれの担当者の判断で、馬によっては各ステップを数日でクリアしていく場合もあれば、それぞれの段階を念入りに実施する場合があります。ブラバゾン氏にはしっかりとした馴致ができていないと良い調教ができないという考えがあるようで、これが「調教よりも馴致を優先すること」という育成方針にも繋がります。

また、ブラバゾン氏は「自身は育成業者（Pre-trainer）であり、調教をするのはその馬を管理する調教師（Trainer）の仕事である」ともおっしゃっていました。そのため、騎乗を行うようになってからも、強調教を実施することは基本的にはなく、馬をリラックスさせながら騎乗馴致を進めていきます（写真7）。さらに、「調教よりも馴致を優先すること」という方針に従い、馴致の段階で馬が人に集中しているかを意識した馬づくりを行っています。女性スタッフの1人と馴致を行っていた際も、その馬の目や耳の動きを常に意識し（写真8）、馬が人に集中していない限りは次のステップには進みませんでした。



写真6 ドライビングの様子



写真7 厩舎内馬場での騎乗調教の様子



写真8 馬が人に集中しているかを意識した馴致

終わりに

ブラバゾン氏の厩舎では、それぞれの担当者によって育成方法や重要視するステップは異なっていました。そのおかげで、様々なアプローチ方法を学ぶことができたのは、非常に良かったと思います。このように多くの選択肢を得たことによって、状況や馬に応じて対応方法を変えることが可能となり、より良い競走馬の育成を実施することに繋がると考えています。

★BTC調教場利用 JRA重賞競走 優勝馬一覧(2021年12月～2022年2月分) 関係者の皆様、おめでとうございます。

- ・テオーケインズ 牝4歳 チャンピオンズC G I (2021/12/05・中京) ・テオーロイヤル 牝4歳 ダイヤモンドS G III (2022/02/19・東京)
- ・ミスニューヨーク 牝4歳 ターコイズS G III (2021/12/18・中山) ・パンサラッサ 牝5歳 中山記念 G II (2022/02/27・中山)
- ・ライラック 牝3歳 フェアリーS G III (2022/01/10・中山)

あ・と・が・き

- ★今年の冬は年明け当初から各地で記録的大雪となり、また、全道的に例年より気温が高く、湿雪によりご苦労された地域も多かったと思います。浦河でも積雪が多く、場内では排雪作業と寒暖差による馬道整備に苦慮する日々が続きました。現在は屋外馬場の開場作業も順調に進んでおり、今後は屋外馬場を利用してレースに向けた調教が進められていきます(グラス馬場の開場は5月中旬頃)。なお、本年度は、屋内トラック砂馬場の砂入れ替え工事が8月に行われるため、約2週間閉鎖となります。工事日程は決まり次第お知らせいたします。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご協力の程よろしくお願いたします。(K.H.)
- ★BTCニュース前号でお知らせした、創刊30周年記念特別企画 読者プレゼントへの多数のご応募ありがとうございました。頂いた貴重なご意見・ご感想の中からいくつかをご紹介します。
 - ・国内で馬の学術情報提供を行っている雑誌は数少ないので、いつも有意義に拝読させて頂いています。これからの情報発信も楽しみにしています。
 - ・カラーで見やすく、文章も簡単な表現で分かり易くとても勉強になります。これからもよろしくお願いたします。
 - ・フォトコンテストの写真がとてもいいですね。どの写真も本当に素敵です。
 - ・馬に関する新しい話題を広く、なおかつ分かり易く解説されており、いつも楽しく拝読させて頂いております。ありがとうございます。などBTCニュースは、馬に関する基礎知識、生産・育成に関する技術および情報等を中心に、読者にわかりやすい内容を心がけて掲載しております。強い馬づくりの参考として、今後ともご愛顧のほど、よろしくお願いたします。
- ★昨年末、BTC研修23期修了生の小栗実さんが、令和4年度のJRA新規調教師免許試験に合格したという嬉しいニュースがありました(美浦の青木孝文調教師、栗東の杉山佳明調教師に続く三人目)。小栗さんは研修修了後、ノーティホースジムさん⇒武田ステープルさん⇒栗東鈴木孝志厩舎にお世話になり、7回目の受験で夢をかなえました。BTC研修入講時、「いつでも向上心を忘れずに、誰よりも努力していきたい」と意気込みを語っており、この気持ちを忘れずに今後も活躍してくれることと期待しております!頑張ってください!(K.M.)

BTC ニュース 2022年(2) 第127号

※BTCニュースに関するお問い合わせは、下記の電話で受け付けております。

発行日:令和4年4月1日

発行:公益財団法人 軽種馬育成調教センター TEL 0146 (28) 1001(代) FAX 0146 (28) 1003
〒057-0171 北海道浦河郡浦河町字西舎528 ●ホームページ <http://www.b-t-c.or.jp>

編集責任者:安藤 士郎 編集:小林 光紀

制作・印刷:西谷印刷株式会社 〒135-0022 東京都江東区三好2-1-4